

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100163		
法人名	ひだまり荘 株式会社		
事業所名	ひだまり荘 敷戸		
所在地	大分市敷戸北町2番2号		
自己評価作成日	平成24年9月16日	評価結果市町村受理日	平成24年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4490100163&SCD=320&PCD=44
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府巻番館1F
訪問調査日	平成24年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷戸の住宅地の中にあるひだまり荘は地域の一員になれるように敬老会・運動会・夏祭りなど各種イベントに参加させていただき交流を図っています。敷戸に開設して丸五年、少しずつではありますが地域の中にもだいが溶け込んでいっているように思います。その交流の中で地域の方へ認知症の理解を広め、時には相談機関となれるように努めています。また利用者の方には自宅の延長のように過ごしていただけるように日々努めております。職員も認知症の利用者の方の出来ない点や問題点に目を向けるのではなく、出来ること、したいこと、手助けがあればできることに視点をおき日々ケアに取り組んでいます。そして少しでも認知症の進行が穏やかになるよう頑張っております。

利用者第一に考える「理念」の実践への管理者、職員の誠実な取り組みが利用者相互の、そして利用者、職員間の優しさ、思いやりとなって実を結んでいます。家庭的な雰囲気大切にしながら利用者、家族の意見には真摯に取り組み、利用者本位の支援に心掛けています。地域の繋がりは、事業所が重視する課題の一つであり、地域密着型サービスの役割を踏まえ、事業所ができる事は何かを常に考え、認知症の啓発活動や相談窓口、行事の参加、広報誌の発行等情報を発信することにより地域貢献に役立っています。また管理者は職員の育成にも力を入れており、職員の力量に応じ内外の研修に参加し、更なる資質の向上とモチベーションを高く維持し続けられるよう努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的な職場での会議で運営理念を全職員で再確認したり入居者の方と一緒に地域のイベントに参加したり実践に向け取り組んでいます。	「理念」は玄関、ホールに貼られ、契約書の中にも記載されています。毎月の会議の中で、理念の再確認を図りながら職員の共通認識の下「利用者を第一に、業務を優先しない。」をモットーに尊厳のあるサービスに努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員は布団干し、洗濯、散歩などを通して地域住民と交流を図っています。また高校生の職場体験の受け入れ、地域のボランティアグループを招いて歌を歌って頂くなどの交流を図っています。	町内会に加入しており、敬老会、夏祭り等の行事には利用者と共に参加し地域交流を図っています。地域にある高校生やボランティアを積極的に受け入れ、利用者と共に楽しむ、相互交流が行われています。	運営推進会議を利用し、地域の認知症の啓発活動を行っています。事業所が地域福祉の拠点となるよう事業所の方から積極的に出向き、地域交流を深め、事業所と地域の人々が互いに支え合える、双方向関係が築かれる事を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて地域の参加者に認知症をテーマに事業所での事例や学習会を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では参加者の皆様から自由に発言していただき毎回大変盛り上がりがあります。皆様からの意見を活かし、次回の会議のテーマにあげるなど、実際の運営に活かしております。	運営推進会議も参加者からテーマをもうけ、積極的な意見交換ができ、活発な会議となっています。会議で出された意見、質問を、全職員で検討しサービスに活かしており、その結果を次回の会議に提出し再度意見を頂いており、会議がサービスの向上に有効に活用されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	様々な職務で市役所を訪れた際に情報交換を行っています。また制度や規定などでわからないことはすぐに連絡し対応するといった形で取り組んでいます。	運営推進会議の際に、事業所の実情やケア、サービスの取り組みを伝え情報の共有を図っています。また市の要請を受け、認知症サポーターキャラバンのサポーターになり、情報を地域に発信する指導員の養成に取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内外の研修を通して理解を深め実践しています。玄関の施錠をしないことでの不安感がありますが、環境の整備やコミュニケーション、所在確認の徹底を行うことで拘束を一切せずケアを行えています。	身体拘束について、市主催の研修や事業所内の研修等で全職員が理解を深め毎日のケアに活かしています。更に言葉による拘束など意識改革に向けた取り組みを行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	市役所が開催する集団指導等に参加し虐待や身体拘束について学んでいます。また全職員に研修内容が行き渡るように参加した職員が伝達講習を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	理解の程はまだですが、職場の学習会を通じて少しずつですが学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の際には、一つずつ丁寧に説明し疑問点がないか尋ねています。その場ではなかなか思いつかないこともあるため契約書を自宅で読み返していただき、疑問点があれば連絡してもらうようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃よりコミュニケーションを図りその中から意見要望があれば臨機応変にその場で解決するようにしています。ご家族には意見箱を設置して希望に添えるようにし、家族の来荘時には管理者が出向き話をするように努めています。	面会時や運営推進会議で家族の意見、要望を聞く時間を設け、出された事は真摯に受け止め臨機応変に対応し、運営に反映されています。	「家族会」を設置し、家族間の交流と意見、要望が気軽に出せる場の提供を考えています。家族の意見を聞き運営に反映する機会を、多くもたれることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや会議のときに意見交換会をしています。また1~2ヶ月に1回個別に面談等を行い、意見を聞き取るように努めています。	管理者は意見交換会やミーティング、日常会話の中から、職員の意見、要望を聞くようにしており、十分に把握するため個人面談も行うと共に、職員の意欲の向上やサービスの質の確保に繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの努力や力量、実績を把握してそれぞれのポジションで頑張ってもらおうようにしています。どんな小さなことでも利用者様にしてあげたいこと、自分のしてみたいことが言える環境に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれの力量に合わせて法人内外の研修を受講しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各施設で行われる研修会に参加し交流を図りサービス向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前には必ず本人、家族と面談をし現在の状況を聞き取るようにしています。また不安解消のため利用前に施設内を見学していただき、納得した上で入居していただいています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人・家族に利用開始前に意見・要望を聞き取るようにしています。その方の望む生活に近い形で支援をおこなっています。事前に施設見学をおこなっていただきご家族と一緒に信頼関係が築けるように努力しています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所することがご本人・家族にとって最良なのか関係者・家族とよく話し合い支援をしています。ご家族が他のサービスをご存じなければご紹介するといった対応をしています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんにホームの中で役割分担をしていただき自分はこの中で役に立っているんだと実感して生活を送ってもらえるように心がけています。また職員は料理の仕方を利用者さんにアドバイスしてもらったり、一緒におやつを作ったりしています。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	相談・入居の段階から入所で関係が終わるのではなく、一緒に利用者を支えていくという意識を持ってもらえるようにお話しています。また何かあれば連絡し一緒に解決できる様に取り組んでいます。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	季節ごとに年賀状、暑中見舞いなどを知人や親戚、友人に送るようにしています。またご家族の方からご本人がどこでどのように暮らしているか連絡していただいています。	家族やアセスメントシートから馴染みの人や場所の情報を収集し、利用者の希望を家族に伝えたり、手紙や電話をすることで馴染みの関係が継続できる支援を行っています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	身体的・精神的に低下が見られる利用者さんにはまず職員が介入し職員との信頼関係が築けたら徐々に他の利用者さんと打ち分け合えるよう支援しています。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も担当のケアマネジャーや施設の担当者の方等とその後の様子について話をしています。またご家族から相談があればその都度対応しています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートを元にその方の生活歴、身体・精神的な情報を収集し、その情報を職員が共有・把握できるように努め今後の暮らし方の希望を聞き取るようにしています。困難な方は家族に聞き取り、身寄りの無い方は本人の立場に立って検討しています。	日々の生活の中で一人一人の思いは変化しており、管理者と職員は、利用者やゆつくり話す時間を作ってあり、思いや意向の把握に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートにその方の生活歴、趣味等を記入しその情報を職員間で共有・把握に努めています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録等で1人ひとりの生活リズム、身体状況を把握するように努めています。朝のバイタルチェックや傷・痛みの患部のチェックなど現状の状態把握に努めています。排便チェック、食事量のチェックもおこなっています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族に希望を聞き取りケアを行っています。日頃のケアでの気づきをきちんと記録し月1回の会議で話し合いケアにつなげるようにしています。また介護計画を介護記録に貼付し支援の内容を職員がきちんと把握するようにしています。	介護計画は、半年に1回見直し、月1回のモニタリングでは職員、家族の意見を参考にしています。利用者の要望は職員からの情報が多く、満足度の確認を行い個々の現状に即した介護計画を立案しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・介護(看護)記録を個別に記入し職員間でその情報を共有できるようにし、その中で状況の変化を介護計画に活かしています。また処置、家族対応などの申し送りノートを作成し情報の共有に努めています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の通院・送迎・付き添いなどご家族が無理な場合はホームで支援しています。歯科の往診を希望される方にも歯科にお願いし対応しています。急用などでご家族の支援が難しい場合もホームで代行できる部分はしています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアに来ていただいたり、高校生や専門学生の実習を受け入れたりしています。また市報を活かし参加したい、また出来そうなものには市役所に問い合わせし参加したり、活用したりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族と相談の上協力医のほか、入居前からのかかりつけ医等、ご家族・本人が希望されたところに受診できるようにしています。以前のかかりつけ医に見てもらえない場合などは家族・本人と相談の上協力医を紹介しています。	受診や往診において、個々の利用者の意向に基づいた医療支援(医師・歯科医師)に取り組んでいます。家族や職員間での情報の共有を大切に、健康状態の把握に努める中で日常の支援に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者さんの日々の生活の中で少しでも変化があればかかりつけ医・看護師に相談し指示を仰ぎ対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向け病院のソーシャルワーカーと定期的に情報の連絡を取り合い関係作りをおこなっています。また少しでも安心していただけるよう入院中できる限りなじみの職員がお見舞いに行くようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約の段階から終末期のあり方について本人・家族と話を行っています。また急変時の延命措置についてもご家族・本人と話合っています。意向はその都度変化していくのでその都度お話をしています。	終末期の取り組みについては、入所前からの説明・同意を表明しています。終末期のケアに向けた職員の意識確認も行なわれており、全職員間での共有の支援体制が伺えます。	終末期の看取り支援において、施設での可能な援助体制について、医療機関との連携によるチームケアへの体制作りに向け、全職員間で共に協議を重ねている状況にあり、今後に期待が持たれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員での学習会や消防署等での応急処置の講習を受けたりしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っています。避難訓練は主に夜間を想定した訓練を実施しています。運営推進会議で近隣の住民の方々に災害時や事故発生時協力していただけるようお願いしています。	火災による夜間防災を想定した避難訓練を中心に、年2回の実践に取り組んでいます。担当職員が危機感を持って行動できる支援体制づくりを通し、安全対策に積極的に努める姿勢が伺えます。	検討課題として、地域住民の参画や消防団との連携に着手している意向を伺いました。さらに、入浴中の避難支援方法や夜間時の緊急通報による、職員の伝達状況の把握に努められることを希望します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんに対する言葉かけ・対応は日々の業務の仲で職員同士注意しあえる環境づくりに努めています。トイレなどの誘導などは大きな声で声を掛けるのではなく他の方に気付かれないようにさりげない誘導を心がけています。	毎月の研修の中でも、先輩である利用者に対しての言葉遣い等、プライバシーについて話し合いが持たれ理解を深めています。職員同士の協調性の大切さを把握しており、チームワークに基づく日常の支援体制づくりに取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表明したり、自己決定できるように働きかけている	うまく自分の思いを表出できない利用者さんに対しては個別に落ち着いてゆっくり対応するようにして希望などを聞き、活かすようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	敬老会・運動会・クリスマスなどの行事はカレンダー通り行うようにしています。バスハイク・季節に応じたイベントなどはその日の天候・利用者さんの体調・希望にそって対応しています。また囲碁が好きな方、花が好きな方、編み物が好きな方等それぞれ対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的にホームに来てくださる美容師さんがいらっしゃいますが、行きつけの美容室に行きたいと希望があれば行くことができます。また毎日着替えたい方や寝巻きに着替えて休まれる方等様々な要望に応えています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	三食とも職員も一緒に席について食事をします。利用者さんと一緒に下ごしらえをしたり、一緒におやつを作ったりしています。また当番表を作り、配膳・お盆拭き・床掃除を毎日一緒に行っています。	バランスを考慮した献立を栄養職員が作成しており、嗜好の把握にも留意しています。個々の状態に合わせ、可能な調理やお手伝いを職員と一緒に取り組む中からも、食への関心、楽しめる食卓の雰囲気づくりを大切にしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた食事形態（お粥・一口大、刻み等）を提供しています。また水分摂取が少ない方には摂取量を記録し職員間で共有するようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っています。うまく出来ない方には職員が確認を行い磨き残しがあれば職員が行っています。また痛みがあったり、入れ歯が合わなかったりしている方には、家族に相談の上歯科の往診を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意がはっきりしない利用者さんには職員が声かけ・トイレ誘導を行っています。失禁がある方でも常時パットを着用するのではなく、誘導の時間、回数などを排泄チェック出来るだけ布のパンツで過ごしていただけるように職員間で工夫しています。	個々の排泄パターンや状態の変化を全職員間で共有する中で、自立支援(トイレでの排泄・向上)に積極的に取り組んでいます。個々の利用者のパターンや仕草等を職員が衆知する中で、気づきによる言葉かけによる援助が行われています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行っています。排便が困難な方には運動を積極的にしていただいたり、水分、繊維質のものを多く取っていただくようにしています。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日が決まっていますが、突然の入浴希望にも対応できる様にしています。入浴を拒否される利用者さんには、仲の良い方と一緒に入浴していただいたり、時間をずらすなど対応を行っています。	週3回を基本とし、心身の状態に合わせた臨機応変なケアに留意する中で、利用者一人ひとりの安心と心地よく、楽しむ事の出来る援助への工夫(温泉の雰囲気・入浴剤・壁面装飾)に取り組んでいます。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中ずっと活動するのは体力的にきついため、昼食後、排泄・口腔ケアが済んだ方からそれぞれの居室や好きな場所で休息できる時間になっています。どうしても休めない方は職員と一緒に過ごして頂いています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のケース、介護記録に薬の情報を貼付し理解に努めています。薬が変更になった場合はしっかりと状態の確認をおこない、変化があれば主治医に報告するようにしています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で利用者の方それぞれが特技や趣味を活かせるように取り組んでいます。その方が得意な編み物や家事、裁縫、栽培などを生活の一部に取り入れるように支援しています。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	突然の外出希望にも対応しています。利用者さんが1人ではいけない場所への希望があった場合には家族と連絡をとり可能であれば出掛けて頂いています。またみんなで季節に応じ初詣やお花見、海へ出かけたりしています。	利用者の健康状態等に配慮しながら、定期的なバスドライブや家族との連携の中での外出など、利用者の意向に添える支援に取り組んでいます。散歩や外気欲(庭でのティタイム・花園観賞)による気分転換にも努めています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理上、必要最低限の金銭の所持をお願いしていますが、利用者の方が不必要にお金を使用しないように支援しています。買い物に行った際にはお金の支払いの支援をしています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話の使用はご家族から制限が無い限り自由にしていただいています。手紙はご家族や友人から届きますし、返事を利用者さんを書いていただいたり、字を書くのが難しい利用者の方には絵葉書や写真を送ったりしています。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全フロアに自然の光や音を取り入れられるよう工夫しています。玄関、ホールや廊下、食堂にはみんなで作ったバスハイクの写真や自分達で作った季節の作品等を飾り居心地欲過ごしていただけるよう工夫しています。	利用者の安全と安らぎを考慮しながら、リラックスできる共用空間の中で、一人ひとりがくつろげる雰囲気づくりに取り組んでいます。幅広の廊下に置かれたテーブルセットは、歩行訓練時の休憩にも活用されています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の方々が自由に過ごしていただけるように居室だけでなく廊下等、所々に椅子やソファを置いています。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時家族とお話し、ご本人さんが気に入られている馴染みの物(仏壇、ベッド、寝具、趣味のもの)などをお持ちいただき少しでも自宅の雰囲気近づけるようにしています。	安全・安心への配慮として、清潔・リラックスできる環境づくりに積極的に取り組んでいます。家族との交流を大切に支援しており、協力を得ながら、個性(特徴)ある心地良く過ごせる居室作りに努める職員の取り組みが伺えます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部はバリアフリー・手すり等を設置し移動・移乗が安心してできる様にしています。またトイレや洗面台の前に張り紙をして少しでも自分で、できる様に工夫しています。			